

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	平成 29 年度第 1 回山口市公共交通委員会
開催日時	平成 29 年 5 月 22 日（月曜日）13：30～
開催場所	山口総合支所第 2 委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	伊藤 和貴委員（会長）他 17 名
欠席者	大原委員、山根委員
事務局	山口市都市政策部交通政策課
議題	1 平成 28 年度事業報告、評価について 2 平成 28 年度決算について 3 平成 29 年度事業（案）について (1) 山口市総合時刻表発行及び案内表示板の更新について (2) クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクトについて (3) 山口市ノーマイカーデーについて (4) 山口市市民公共交通週間について (5) 公共交通教室について (6) パーク・アンド・ライド、サイクル・アンド・ライド事業について 4 第二次山口市市民交通計画（山口市地域公共交通網形成計画）について 5 報告事項 (1) グループタクシー利用促進事業の実施状況について (2) コミュニティタクシー運行促進事業について
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1 平成 28 年度事業報告、評価について 2 平成 28 年度決算について 承認 【質疑】 議事 1 及び 2 に関して ○A 委員（交通事業者） 公共交通委員会の前身のまちづくり委員会では、空港連絡バスの現況や 1 便あたりの利用人数が議題に挙がっていた。次回の委員会から資料として提示して欲しい。 ○事務局 資料提示について承知した。また、空港連絡バス利用促進事業に、若干の予算がついており、公共交通委員会ではなく市の事業として行っている。これについても、次回ご紹介できればと思う。

OB 委員（市民公募委員）

資料 2、3 頁のノーマイカーデー事業の広がりが見られないという話であるが、比較的大きな事業所に対して、事業の趣旨説明をして協力の依頼をしているのかが 1 点。資料 17 頁の決算書の事業費予算が 200 万少し残っている。せっかく経費を見込んでいたのに具体的にどのあたりが執行できなかったのかが 2 点。また別件だが、コミュニティバスが新型車両になったのを見かけた。どの程度導入して、今後の導入計画、経費等について説明して欲しい。

○事務局

ノーマイカーデーについては、例年約 400 の市内事業所に呼びかを行っている。前年度に協力をいただいた事業所には参加申込が無い場合、電話をして協力を求めている。

2 点目の 200 万余り執行できていない件については、モビリティ・マネジメント事業の執行率が 50%ほどであり、これは事業者委託せずに事務局で実施したものが多かったことが大きい。今年度は公共交通ふれあいフェスタの取組みをもう少し工夫をするなど、それぞれの事業に広がりが出るように執行していきたい。

3 点目のコミュニティバスについては、当初から運行していた三菱ふそうローザの車両が安全性の確保が出来ないとの理由から、防長交通に 2 台更新してもらった。車両価格は 1 台 1,700 万円ほどであり委託料に車両の減価償却費を補填している。また、残りの 3 台（日野リエッセ）も今後更新の必要があるが、三菱ふそうローザよりはマイクロバスに適した仕様であり、もう少し長く使えるが、こちらも年数が経っているので適宜更新する予定である。コミバスのルートには湯田に細い通り（石州街道）があり、車両更新をするとなると、ルート変更も必要になるかもしれない。今後地元とも調整して検討していきたい。

○C 委員（交通事業者）

5 頁のパーク・アンド・ライド事業は、小郡のふれあいセンターで 8 台と記載があるが、8 人の方が利用しているということでしょうか。

○事務局

登録証を発行した方、利用申込みをした方が 8 人いる。

○C 委員（交通事業者）

資料の中で、公共交通機関を利用するきっかけになっていると記載しているが、8 人程度ではそうっていないと思う。今後どのように努力していくのか。

○事務局

山口市は、車からバスや鉄道に乗り換えて便利であるというまちの形態になっていない。今のパーク・アンド・ライドは広島など外に出る人が使っている例もあり、元々の趣旨から外れている。今後、次期計画の中で皆さんと一緒に考えていきたい。

3 平成 29 年度事業（案）について

承認

【質疑】

OD 委員（市民公募委員）

パーク・アンド・ライド事業について駐車場が 2 つしかない。去年も 2 箇所ですら今回も 2 箇所。

山口線に乗ってもらおうという本気度が感じられない。サイクル・アンド・ライドは 18 箇所あり、パーク・アンド・ライドもせめて 10 箇所くらいは確保しないと利用しにくい。また、登録制は面倒であり、この手続きがネックである。登録が必要だとしてもその場で手続きできるなど簡単な方法にする必要があるのではないか。

○副委員長

パーク・アンド・ライドに限った問題ではなく、ノーマイカーデーなどにも関わってくることだが、根本的に考えないと効果が出ない。公共交通を利用するほうが便利であったり、速かったり、お金がかからなかったりといった、何らかのメリットがないと便利な車から乗り換えてもらえない。

まち全体の交通ネットワーク、地域全体の交通ネットワークの中で、何をどう解決していくのかという問題であり、都心部の渋滞の問題、都心近辺の目的地向くための施策を組み合わせないと効果が出ない。パーク・アンド・ライド事業が委員会事業になって以降、何度か言っているが、メリットがあり自然発生的に車を置いていくような場所でなければ成立しないのが現実。全国で定着しているところが何箇所もあるが、それらは皆メリットがあって自然発生的な乗換えが成立するような場所であり、条件を整えないとなかなか定着しない。場所だけ設定しても利用しない。例えば、警察とも協力して都心部の一定エリアを渋滞解消モデル地区として位置づけて、どうしたら全体の車の数を減らせて公共交通がスムーズに走れるかといった取組みを併せて考えていく。さらに、次の議題にも深く関わるが、車とバス、バスとバス、鉄道とバスなど、どこでどのように結節できるかというトータルのネットワークを考えて行く中でパーク・アンド・ライドなどを位置づけていかないとただ場所を増やしても効果が無い。特にパーク・アンド・ライドは、全体を見渡してどうすれば効果的であり、どうすればスムーズに人が流れるのか検討する必要がある。

ノーマイカーデーも同じで、この日一斉にノーマイカーデーにしましょうというのではノーマイカーデーがうまくいかないのは明らかである。少しでもマイカーを減らすのにつなげていくためには、スムーズにバスに乗り換えていけるような、利便性が高い仕組みの中でやっていかないといけない。いかに、スムーズに行きたいところに繋げていけるか、流していけるかが大切。おそらく単発では成り立っていかない。

OD 委員（市民公募委員）

ノーマイカーデーは月 1 回の第 3 金曜日で、バス半額手形はこの日に限って利用できるもの。市民全員に半額手形を配って、月のどの日にも使えるようにすれば利用者が格段に増えると思う。

OE 委員（学識経験者）

どうすればよいかということではなくどういう理念でやるか。先ほど結節の話が出たが、もっと大切なことは自動車交通をどうしていくのか。全国的には道路交通量がもうこれ以上増えず、むしろ減っている中で、道路空間の再構築、時間シェアをどうしていくのか大きな課題。勇気をもってより車に不便なまちを、混乱の無い形でどう作っていくのか。全国で一番車に優しい山口において、ちょっとだけ車に我慢してもらうことを、次の 10 年の計画の中のどこかに入れないといけない。そして公共交通が必要な状況や自転車が使しやすい状況を作っていかなければならない。

OB 委員（市民公募委員）

22 頁に山口駅の案内状表示板の更新とあるが、これに関連してコミュニティバスのバス停表示が簡単なもので機能していない。観光客にとっては路線についても非常に分かりにくく、何とか改善ができないものか。全く知らない人が見たときに分かりやすいものにして欲しい。

それと、市職員のエコ通勤はノー残業デーと組み合わせて取り組めばよいのでは。山口市中心部であっても夕方のある時間を過ぎると極端にバスの本数が減る。仕事をしていてある程度遅くなるとバスを利用できないので、ノー残業デーと一緒に考えるべき。

30 頁の公共交通週間のふれあいフェスタは来場者数も増えてきている。しかし、来る人のうちバスなどを利用した人はほんの一部。アルコールを提供すればどうか。アルコールを飲んで長居をしてもらってバスで帰る。バスを利用する大きな機会になる。可能であれば検討して欲しい。

それから、コミュニティバス大内ルートから吉敷・湯田ルートへの山口駅での乗り継ぎについて、時刻表上で可能であっても実際はうまくいかない。行ってみたら既にバスが出ていることもある。湯田温泉駅などポイントとなる他の場所でも乗り継ぎができるようにならないか。また、回数券を売っていることの宣伝がバスの中でされていない。乗り継ぎ割引を含めて PR するということも含めもう少し利用促進を図ってはどうか。

○事務局

山口駅の案内表示は路線バス、コミュニティバス、観光ルートの案内もしている。見せ方の問題なので工夫していきたい。また、回数券販売や乗り継ぎの PR もしていきたい。

○委員長

ノーマイカーデーとノー残業デーが合致していない。これから、働き方改革と

公共交通がセットになっていくと思う。それを含めて、交通政策セクションと人事労務管理部門、労働組合 3 者が知恵を出していくことになると思う。山口市ではバスカードを組合で販売しており、なかなか志が高いと思っている。これから一緒にやっていこうと思っている。

○副委員長

働き方改革と公共交通通勤がセット推進できれば、全国に先駆けての話だと思う。面白いと思う。

○OD 委員（市民公募委員）

委員会で様々な取り組みをしているのは市民としても支援したい。市の職員だけがエコ通勤を強いられるのはいかがか。県職員、県警、国など山口市にはいろんな公務員が住んでおり、連携すれば効果が出ると思う。

○OE 委員（学識経験者）

要望ではいけない。数字でやった方がよい。県職員や市職員、国の職員が絡む交通事故・死亡事故の数字を出したほうが良い。やるべきことだと思う。事故を引き起こすような通勤体制を容認しているということについて説明責任が問われてくる。東京都では公共交通機関から近い所に住む人はそれを使うことになっており、条例の中に書き込まれている。以前から言っているが、銀行や電力会社は、車通勤はあり得ないこと。不便な所でも 20～25 分歩けというのが関西電力の方針。なぜなら会社には信用が一番だから。公務員が交通事故を引き起こして事故の当事者になる確率が高くなるのは、一定の職員が遅くまで働く状況の中で当たり前のこと。働き方改革はそのようなことも含め責任のあり方を問われることだと思う。

○委員長

確かに通勤時の事故率というのは調べていきたい。交通政策と人事で共同して作業をしてみてください。エコ通勤の呼びかけについては、県や国などと一緒にエコ通勤を実施するのはどのようなチャンネルでやるか。少なくとも公務員の通勤手当は、公共交通を利用した場合の補填率が高いので、公務員の方が転換へのインセンティブは高いのかもしれない。その点を含めて議論する道筋を考えていきたい。

○OF 委員（県交通政策課）

県では、10 月第 3 金曜を県内ノーマイカーデー、6 月と 12 月をノーマイカーデー一月間としており、各バス事業者と協力してマイカーからバスに乗り換える方に、民間、公務員問わず、環境部局と連携してバス半額券を配布している。使用実績は一昨年から統計を取っていないが、配布枚数だけでいえば年々増えている。

また、通勤手当は一定の距離までは徒歩や自転車通勤をしている。2 キロ未満には手当が無く、ある一定の金額を超えれば 1/2 となり当然カットされる。如何せん県は公共交通機関と公用車の台数もやや不足気味であり、手当が出なくても車で来ないといけない状況。しかし、このことについては人事当局と組合と話し合

いの場がもたれている状況である。

OD 委員（市民公募委員）

県職員は市職員より多く、サイクル県山口と言っているのだから、県も他人事と思わず、自転車通勤を実施し、県も意識を高めて欲しい。月 1 回なみの県エコ通勤にも取り組んで欲しい。

共存共栄できる公共交通機関、タクシーも含めて取り組む形が理想と思う。

4 第二次山口市市民交通計画（山口市地域公共交通網形成計画）について 承認

【質疑】

OA 委員（交通事業者）

地域検討会は 10 年前と比べてかなり面白い取り組みだった。一方で参加者の意見の中で、もっと先生方（副委員長、E 委員）の話を聞きたい、行政と直接対話をしたいという声があった。

また、地域検討会の中でとてもかわいそうだと思ったことがある。阿東のある地域では、地域の中で 75 歳の方が一番若く、話をした人は交通事故防止のため免許返納したいが交通環境が整っていないのでマイカーを運転している状況であり、毎年自分の行動範囲を狭くしていついっていいとのことであった。何とか買い物ができる施設まで運転するが途中で寄り道は一切しないようにしており、私たちは楽しみとか、例えば美味しいもの買いたいなどは思わずに、生きていくだけで十分だと思えないとといけないう状態であるという話を聞いた。

たまには地域の方をバスか何かで移動させてあげる等の取り組みも必要。やはり生きていく中で楽しみも必要だと思う。

次に市民、事業者、行政の 3 者協働の話であるが、幾つかの地域でコミュニティタクシーを作りたいからということで話に行ったことがあった。その中で、コミュニティバスやかつての市営バスは行政が与えてくれるのに、何故コミュニティタクシーは地域が汗をかかないといけないうのかという声があり、結果的に全部頓挫した。

資料に公共交通普及委員とあるがこれはすばらしい意見だと思う。地域検討会で意見を聞いていると、地域が高齢化していて汗をかくにもかけないという声があったので、高齢化が進んでいて汗をかけない地域では、地域の要望をよく聞いて、代わりに活動してあげる「汗をかく人」を確保してやっていくことが今後必要ではないか。

また自動運転のことを考えてみても、市民、事業者、行政の 3 者協働をやろうにもできない、崩れかけていく現状があることを十分考えた上で次期計画を作成してもらいたい。

OG 委員（市民公募委員）

今回の地域検討会で直接地域の声を聞いてもらったと思っている。次の計画で

は中山間地域の生活弱者全般の救済を盛り込んでもらえたらと思う。

地域検討会で阿東へ来る時、折角なのでこの機会に、市の職員や先生方にぜひ公共交通機関を利用して、体験を兼ねて来て欲しいとお願いをしていたが、公共交通機関の時間が会議に合わない、資料等準備物があるので難しいとの回答であったので残念に思った。市内中心部の公共交通との違いを実感してもらいたかった。次回また阿東で検討会がある時は、ぜひ体験してもらいたい。

今ある公共交通を工夫して当面の対応ができると思っている。例えば、バスと鉄道の時間の調整や、生活バスでいえば利用が減少しているが、合併前からのルートや時刻の見直しがほとんどされていない。だんだん高齢化して当時と変わっているので、できれば便数も増やして欲しいが、実態に合わせて住民の意見を聞いて時刻編成してもらいたい。

また、学校の送迎バスを活用したり、ＪＲも便数が少なくなっているので特急料金が高いので割引をしたりして利用しやすいようにできないだろうか。今ある資源で連携をとることができるのではないかな。

阿東地域とは別件だが、先日、市内で会合があったときに、できるだけ公共交通機関を利用して行こうと思っていた。車で宮野駅まで行って車を置き、そこからバスやＪＲでと思ったが、16 時くらいの便がなくて結局タクシーを頼み、1,400 円もかかった。市内でも空白の時間帯があるのかと思い驚いた。中山間地域の公共交通について二次計画に地域検討会で出た意見を汲んで欲しい。

ＯＨ 委員（市自治連合会）

資料 40 頁（議事 4-1）の①に運転免許の自主返納の記載があるが、例えば今後 80、90 歳になって国が決める免許証の定年制が導入された場合、地域はだいぶ前からそれに対して準備が必要である。生活弱者ではありながら 80、90 歳になって道路を逆走することが社会的に問題になっていて、これを抑えるためには最後は自主返納ではなく、定年制がもしかすると出てくるのではないかな。地域交通として何を基本的に考えるか今日から準備を粛々と進める必要があるのではないかな。

ＯＥ 委員（学識経験者）

免許の定年制はできない。それぞれの移動の権利があるのでそう簡単ではない。警察も悩んでいる。私も先ほどの阿東の話聞いて、うっと思った。

午前中に開催したコミタクの協議会において佐山の事例でこのような話があった。「このコミタクがある限り息子の世話にはならない。この地域できちんと暮らしていく。」と言い切った人がいた。地域交通を作るということはこういうことだと思う。だから皆でしなくてはならない。阿東を見捨てたら山口市全部がこうなる。いずれ山口市の多くのところは阿東と同じような人口減少となる。私たちは、阿東を絶対に安心して暮らせるような地域にすることがとても重要なことだと意識して、次の計画を作る必要がある。

一方で、何とかしてくださいとか救済してくださいとか、して欲しいではきつと自分たちに必要なものはできない。生活バスもあのままでよいのかを地域で考

えて、その核としてセンターも役割を果たしてやるべきことがあるのではないかと。してください、やってくださいでできる状況ではないと思う。一方で 70 歳以上が多いという現状で 市民の活動や意見出しをサポートするような中間支援がどのように入っていくのかが大きな課題である。幸い山口市は中間支援の市民活動が盛んなところで、今回の地域勉強会でも大きな役割をしてもらったと思う。きっと市民が市民を支えるような、そんな枠組みで、皆で、阿東地域の方も今までとは違った考え方をお願いではなく一緒になって考えていくことで、安心できる地域づくりをしていく必要があるのではないかと。この 4 つの課題は、こうした地域交通がまちづくりの核心であり、縮減都市とか何とか確保しないなどと情けないものではない。車に頼らない質の高い成熟した都市、広域で合併したからこそ豊かで皆が納得できるような都市づくりをしていく、そのきっかけになるような計画でなければならない。先ほどの働き方改革もその中の一部分である。ぜひ阿東を見捨てず、阿東の人たちが安心して暮らせるような、阿東の人たちも主体的に考える、そのようなことを視野に入れて次の計画が進められたらよいと思う。

○I 委員（中国運輸局山口運輸支局）

阿東地域は今の状況を緊急に対処しないとイケない。また 5 年先、10 年先の状況に対処しないとイケない。いろいろ考えながら対策をとっていかないとイケない。その中で、高齢ドライバーの重大事故の問題であるが、今後どんどん免許を保有する高齢者は増えていく。その時に交通事故をどうやったら無くしていけるのか。どうやったら生活していけるのかをきちんと考えていかないとイケない。

例えば、お出かけの機会を確保するための健康づくりに公共交通を利用する。逆に言えば公共交通が健康づくりに寄与していく。健康福祉部局と連携してそのようなことを検討していくことが必要なのではないかと。

議事 4-1 の 9 頁記載に非常に補助金が増加しているという記載がある。これに対して何か対策をするのか。これは金額の問題だけでなく、住民満足もあると思うが、何か定量的に示せるものがないのかと思う。その点を検討してもらいたい。

○A 委員（交通事業者）

地域公共交通網形成計画を作成する上で今までと違っていることは、こういう風にしたらいいとか、こうしていきましょうとかではなく、具体的なものを盛り込まなければいけないと国から示されている。まあまあ入っているが、ずいぶん足りないところも多いと思う。今回の資料用に簡素化されているのかもしれないが、国から示された形のものを作成するのであれば、もっと具体的なものを入れないといけないのではないかと。

○事務局

確かに、資料としてはまだまだ不十分なところがたくさんあると思う。例えば、現在の路線や便数、各停留所や駅の利用者、現状あるいは将来の見込みとしての人口集中と公共交通の相関、お店や病院、高校などの集客施設の位置との関係などが他市の計画には記載されている。今回のものがそのまま計画になるのではな

く、必要に応じて肉付けをして今後提示をしていく。

今回、このような課題提示にしたのは、この10年をやってみて、その中の基本的な考え方で基幹交通とコミュニティ交通にしっかりと機能分担し、それぞれを充実させてきたという、若干の自負もあり、このような言い方をすれば誤解が生じるかもしれないが、それほど今の公共交通ネットワークが不十分なものではないと思う。非常に広域な山口市域であり2つの都市核があること、市街地が拡散しており鉄道駅を中心としたまちのつくりになっていないことなどから、公共交通を考える上ではなかなか難しいまちと思っており、その中ですごく不十分というわけではないと思っている。

しかし、市民アンケートでは不満度が高く、利用者も非常に少ない、今回の市民アンケートや地域検討会をやる中で、まずは市民の方に利用していただく、乗って支えていただくことがやはり一番と思う。先ほど車に非常に優しいまちという言葉があった。よほど利便性が上がらない限り、この非常に便利なマイカーから公共交通に乗り換えることはあまり考えられない。けれども公共交通が必要な高校生や高齢者は必ず存在しており、今利用しない人も皆、将来を考えて公共交通は必要と思っている。まずは何をすればよいのか、どうすればよいのかを考えていただくことが必要と思う。ただ、乗っていただくには利便性を高めていくことも必要であり、最低限の移動手段を確保することも必要。また、まちづくりとの連携という点で、今後の山口市の都市核の賑わいや立地適正化計画における公共交通の役割をどう位置づけてまちづくりをしていくかなど、それらをしっかりと見据えた大きなくくりでの課題と捉えていただけると大変助かる。

10年やってみた中での、また市民アンケートや地域検討会の結果から、この4つを課題認識としていただきたい。あとの細かいところは沢山あり、分かりやすい路線にするとか、都市核の賑わいをどうしたらよいかなど様々な課題があると思う。それに沿ったどういう路線にするか、どういった利便性を図っていくかなども当然出てくるので、それに合わせた資料提供も今後必要と考えている。個々の具体的な課題についてはもう少し時間をいただき次回また提示していきたい。

OD 委員（市民公募委員）

（D 委員が当日配布した「公共交通に関する市民の声を生かした交通計画を」の資料をもとに説明）

防長バス、JR中国バス、JR西日本は、誰もが乗ってみたいと思う新しい魅力的な車両に変えていくなど、10年後、20年後も存続していける企業経営を目指し、企業として利用者を増やすための企業努力をして欲しい。

○副委員長

10年前に市民交通計画を作成するにあたり、交通まちづくり委員会を中心に相当な議論をし、関係者の様々な意見を戦わせる中で作ってきた。基本的なスタンスや考え方はかなり良いものができてきている。それに沿っていろいろな事業をしてきたことも事実であり、それが100%の効果でなくてもそれなりの効果を生

み、市民の認知度も高まってきている。基本的なスタンスとしてこれまでの考え方をベースに考えていくことでよいと思う。

ただし、10年間の時間経過の中で非常に大きな社会環境の変化があったと思う。一つに高齢化に伴う様々な事情、また様々な場面での担い手の不足の問題等々が見えてきている。車の運転に関しても、今回のアンケートからも分かるように、以前はこのような割合ではなかったが、今では7割以上の人が将来の運転に不安を感じる時代になってきている。ただ難しいことは、今現在の車の運転にはまだ困っておらず将来不安だということ。そうすると今すぐに車から公共交通へ転換するという社会的な流れまでに行っていない中で、将来のことも見据えながらどうやって公共交通を利用度の高いものにして、マイカーを使わなくても生活できて移動が出来るような仕組みを作っていくかということを、今まだ自主的にそうなっていく段階ではないところで考えていかなければいけない難しさがある。

だから基本的にこの4つの課題は正しい認識だと思う。実際に今後計画を作っていくにあたっては、将来確実に交通事業者や地域の担い手が間違いなく減少していく、担う人が全て高齢者になっていくことをまず頭に置かなければならない。また今後資源が豊富に確保できるというわけではないので、現状の資源、限られた可能性のある資源をいかに有効活用するかという視点、もう一つは自動車を使わなくて移動がきちんとできる社会を作るにはどうすることが必要であるかをきちんと議論しながら計画を作っていく必要がある。そこにあたっては、ある意味どこまで計画の段階で書けるか別問題であるが、都市部についても過疎地域についてもかなり抜本的な手法を取り入れざるを得ない面も出てくると思っている。今までの流れの中だけで、やり切れない、あるいは目的を達成できない、ただどある程度抜本的な今までの発想の中には無かったことを取り入れることによって、可能性があるのであればそういうものを取り入れていく必要が出てくると思っているので、計画を今後立てるにあたってこのあたりを議論の対象にできればよい。

午前中のコミタクの会議で、佐山の代表者から「このコミタクが走っている限り、私は息子の世話にならずにここで生き続ける」という発言があった。これこそが地域交通の肝だと思っている。地域が主体的に自分たちでものを考えながら作っていくという地域交通の意味がそこにあると思っている。この考え方は基本的に崩していくべきではない。

いくつかのポイントで申し上げたが、そのようなことを考えながら今後深めていけたらと思っている。

OG 委員（市民公募委員）

阿東地域のことをご発言、ご配慮いただきありがとうございました。阿東地域の生活弱者のことも、この10年の計画の中で何か取組みをスタートさせないと間に合わない状況にあると思っている。今から先を見据えてという少子高齢化を見据えてという話があったが、まさに現在でも高齢化率が50%を超えており、この10

	年だと 6 割近い状況になり待ったなしの状況である。山口市の取組みの中のトップランナー的な位置づけで考えてもらえればと思う。私は民生委員をやっているが、電動カーで 1、2 キロ買い物や病院の用事に使っている人がいて、帰りにバッテリーがなくならないか心配して声かけをしている状況。これからますます車を使いたくても使えないそのような状況になってくる。私も地域の方から意見を出してきて欲しいと思っている。 ○E 委員（学識経験者） みんなで決意しましょう。阿東が駄目になれば山口市全部が駄目になるという覚悟で。佐山もそんなに条件が良いところではないと思う。だけど一生懸命努力されている。みんなで少しずつ努力していきましょう。先ほど事業者はやる気があるかという発言があったが、そのような市民が多い。自分は何もしないで車に乗っているのにそのような発言をする市民が山のようにいる。私は第一次の計画でできなかったことは、市民を変えるということだったと思う。コミタクをやっている地域の方は努力され変えることができたが、大多数の市民は他人事で何とも思っていない。中心市街地で車をいじめると、全国的には普通であるが、山口市では車にマイナスのことをやれば即駄目になる。私は密かに第二次の計画では市民が変わっていくのではないかとと思っている。変わらなければまちは大変なことになる。阿東の問題も山口市民の問題として、真剣に地域のことを皆が考えていくようにならないといけない。事業者は何をしているのかと言うのではなく、しんどい中で頑張っている事業者と一緒に頑張ってどんなことをやっていけるのかということ、いろいろな市民が考え出し、中間支援の活動している有能な市民と一緒に頑張って皆で進めていけたらと思う。 ○委員長 4 つの課題案で進めていくことでよろしいでしょうか。 ○委員 異議なし 5 報告事項 (1) グループタクシー利用促進事業の実施状況について (2) コミュニティタクシー運行促進事業について ○事務局 資料に沿って説明。
会議資料	平成 29 年度（第 1 回）山口市公共交通委員会議事次第 他
問い合わせ先	都市政策部 交通政策課 TEL 083-934-2729